セブ北部地域保健衛生事業

大阪赤十字病院　看護師　服部智奈津

派遣期間　2018 年 7 月 14 日～2019 年 1 月 14 日

報告日　　2018 年 11 月 15 日

2013 年 11 月 8 日、フィリピン中部を台風 30 号（現地名：ヨランダ）が直撃し、セブ島北部も非常に大きな被害を受けました。今年の 11 月で 5 年の月日が経ちます。台風ヨランダによる被害に対して、日本赤十字社は発災直後から医療保健分野の緊急支援を行い、2014 年から 3 年間、住宅再建、生計向上支援、地域保健、防災研修などの復興支援を行いました。そして 2017 年1月から 2 年間の予定で現在、セブ北部にて地域保健衛生事業（以下、本事業）を行っています。本事業は、復興支援において支援が届かなかった地域を対象に、その地域の人々が保健衛生や健康についての知識を深め、地域全体の健康、衛生状態が改善されることを目指しています。

私は、本事業に 7 月から 6 カ月の予定で派遣されています。日本赤十字社の要員が拠点とするボゴ市は、観光やビジネスの拠点となっているセブ市から 3 時間ほど車で北上したところにあります。事業地はボゴ市の北部に位置する 3 つの郡（ダアンバンタヤン郡、メデリン郡、サンタ・フェ郡）にある 15 バランガイです。（バランガイとはフィリピンの最小行政単位で村に相当します。）この 15 バランガイのうち、8 つは離島にあり、残りのバランガイのほとんどは山奥に位置しています。離島や山の中にある地域の保健衛生環境は決して整っているとはいえず、十分な医療が受けられる医療施設へのアクセスも良くありません。また離島の中には島全土できれいな真水が手に入らないところもあります。そういった島では飲料水はすべて島外から購入し、家にタンクを作り雨水を貯めて生活用水として利用しています。

事業地の一つギビットニル島の家庭にある

雨水貯水タンク

フィリピンは「災害多発国」として知られ、特に台風の被害が多い国です。私の滞在中だけでもすでに 2 つの大きな台風がフィリピン北部ルソン島を直撃し被害が生じています。 事業地やボゴ市は台風ヨランダによる被害から復興し、人々の生活も元通りに戻っているように見受けられます。しかし、もし再び大規模な台風が直撃したら大きな被害を避けられるでしょうか。私は平穏できれいな山々や海の景色を見ながらそう疑問に感じることがあります。 私が携わる地域保健衛生事業は、健康、衛生状態の改善を目指し活動しています。医療環境、衛生環境が整っていない地域では、普段から地域レベルで健康や保健衛生の問題に取り組み、大きな病気の予防法や怪我の対処法、救急法を知っておくことが重要だからです。 しかしそれだけではなく、この地域が被災した際には、これらの病気や衛生に関する知識が感染症やほかの疾患の予防に役立ち、自らの健康を守ることにつながります。

メデリン郡にある事業地へ向かう途中の風景。ボゴ市から少し離れると舗装していない道が続きます

事業スタッフのヘルパートが地域保健ボランティアに健康問題について指導する様子

本事業の主な活動は、地域での疾病予防、健康増進に対する取り組みと、小学校での保健衛生促進活動です。フィリピン赤十字の事業スタッフは事業地の地域保健ボランティアの活動をサポートしながら、同時に小学校での保健衛生促進活動を進めるため多忙な毎日を過ごしています。私の役割の一つはその事業スタッフのサポートです。彼らの得意なこと、不得意なことを考えながら、活動が円滑に進められるようにそして彼ら自身が成長できるようにという思いで毎日関わっています。彼らのほとんどは台風ヨランダ後の復興支援事業からボランティアとして赤十字活動に関わっています。彼らが地域での活動に熱意や誇りを持って取り組んでいる姿に、私自身が刺激や力をもらうこともよくあります。彼らと一緒に仕事をする中で、文化や習慣の違い、言葉の壁などにより思うように関わりが持てず難しさを感じることも正直あります。しかし、時に歌ったり、踊ったりが大好きな彼らの明るさに助けられています。

こちらに着任してからあっという間に 4 カ月が経ちました。この派遣中、日本でも自然災害があり多くの方が被災されている中で、このように海外で活動する貴重な機会をいただき感謝致します。また派遣に際し快く送り出していただいた救急部をはじめ大阪赤十字病院の皆様、また日赤の国際救援活動をご理解・ご支援くださる皆様に心から感謝申し上げます。セブ北部の人々が自らの健康を自分たちで守れるようになるために、これからも地域での保健衛生活動を支援していきたいと思います。